



巻頭特集 ありがとう、アーモンドアイ!
11月29日、G1ジャパンカップでラストラン。
ノーザンファーム天栄

11月1日、東京競馬場で行われた[G1第162回天皇賞・秋]で、史上初のG1 8勝を達成した5歳牝馬アーモンドアイ。その活動拠点が、天栄村にあることをご存知でしょうか。施設名は『ノーザンファーム天栄』。競馬界をリードする総合牧場ノーザンファームの「東の外厩(管理・調教・育成を行う厩舎)」として、数々の大レースで活躍馬を輩出する競馬ファン大注目の施設です。



史上初のG1 8勝を達成した「アーモンドアイ」



日本中央競馬会 (JRA) 美浦トレーニングセンターに所属する競走馬の休養・育成施設で、レースとレースの合間の調整を行っている



厩舎長 岡崎 謙さん
自分たちが手をかけて調教した馬が成長し、レースで活躍するたび感動します。これからも競馬を通して、世界中に夢を届けていきたいです。皆さんも応援してください!



Northern Farm 所在地:岩瀬郡天栄村小川字中曽根1



▲木實谷さんが「スピードと瞬発力に優れた馬」というアーモンドアイが、天皇賞を終えて帰厩。天栄で休養し、次レースへの鋭気を養う。



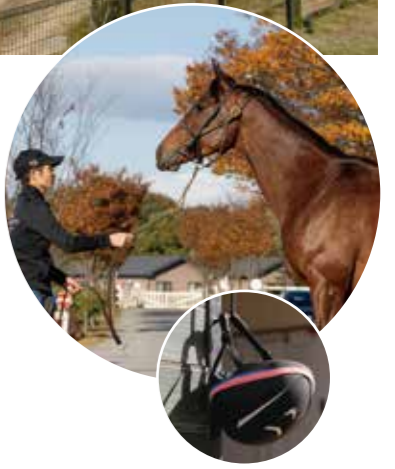
▲1200mは、ウッドチップとダートを併用した周回コース。いまの馬の状態にあわせ、一頭にあった走りやバランスを整えていく。



▲900mの坂路コース。高低差36mは日本最大級。クッション性のある素材ポルトラックで負担を抑えながら、脚力を鍛えられる。



天栄から世界へ! 最強馬の夢を駆ける



天栄の豊かな自然に広がる 日本屈指のトレーニング環境

『ノーザンファーム天栄』は天栄村の東端、穏やかな自然のなかにあります。2011年に総合牧場ノーザンファームの一点となり、前身牧場の施設・設備をアップグレードしながら、競走馬の育成、レース前調教やレース後のリフレッシュケアを担ってきました。

広大な敷地には、1200mの周回コースと高低差36mの900m坂路コース、屋内角馬場やウォーキングマシン、トレッドミルなど日本屈指の調教施設が点在します。「16棟の厩舎に馬房が286あり、年間約600頭の出走馬を送り出しています」と場長の木實谷さん。今後さらに競走馬の受け入れを拡大する予定です。

各馬のパフォーマンスを チーム力で最大限に引き出す

先のG1で優勝したアーモンドアイ、半馬身差で2着となった

フィエールマンもこの施設の利用馬。近年、ここから出走した馬は、競馬ファンから「天栄ホース」と呼ばれるようになりました。それは、長期ローテーションで大レースを制するなど、常識を覆す活躍を見せているため。木實谷さんは、勝てる馬を輩出する理由を「恵まれた環境と規模を活かし、勝つ技術を高めてきた経験が大きい」といいます。

競馬は、1/10.1/100秒で勝敗が決まる厳しい世界です。良い状態で送り出しても、移動や天候などの条件に左右されるため、勝率は10%程度。どの馬をどのタイミングで出走させるかといった戦略は欠かせませんが、「その前に大切なのはスタッフ一人一人の健康」といいます。「働く人の心と身体が健全なら、つねに馬の状態を正しく見極められ、適切なケアで調整し、最高の状態まで引き上げることができるからです」。

調整力の向上に余念のないスタッフ、馬主や調教師を含めた



場長 木實谷 雄太さん

チームとしてのノウハウの蓄積が一頭の競走馬のパフォーマンスを最大限まで引き出しているのです。

目標は、 世界を制する最強馬づくり!

ノーザンファームが目指すのは、世界に通用する競走馬の育成。ファームの代表馬「ディープインパクト」のような優駿の血統をつないでいくことも大切な使命です。その一翼を担い、世界へ羽ばたく最強馬づくりに尽くす『ノーザンファーム天栄』。ふだんは一般の方にお見せすることは出来ませんが、「地元の方にも施設の存在を知ってもらえれば」と木實谷さん。「私は乗馬を始めたことで競馬界へ入りました。岩瀬農業高校乗馬部との交流は以前から続いています。もっと地元の人に競馬や競走馬に興味を持ってもらえたら嬉しいですね」。